

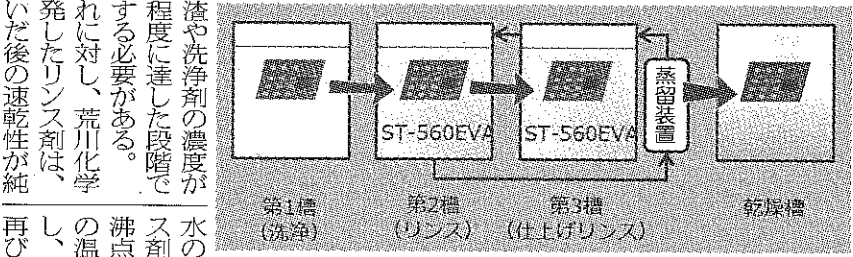
非引火性リンス剤開発

実装基板用 防爆設備が不要

荒川化学工業は、実装したプリント基板の洗浄工程ですすぎに使う新しい薬剤を開発した。洗浄後の実装基板に残るハンダ材料の残渣などを落とす「リンス剤」と呼ぶ溶液で、同薬剤で世界初の非引火性を実現。爆発や発火を防ぐ安全対策の費用をかけずに導入できるのが最大の特徴だ。実装基板を手がける国内外の電子部品メーカーに導入メリットを訴え、従来のリンス剤や純水からの切り替え需要を取り込む。

荒川化学が開発した「バイナルファ ST-560EVA」は残渣の溶解力や、すすいだ後の実装基板の速乾性は従来品と同等以上を確保しつつ、従来のリンス剤では難しかった非引火性を実現した。アルコール系成分の選定や原料の配合比率を工夫した。リンス剤を非引火性に置き換えることで、防爆設備への仕様変更といっ

た安全対策が不要になる。新工場を建設する際などの費用負担が減らせ、国際競争力の向上につながる。輸送時の制約が少ないことなどから、価格帯も従来のリンス剤に比べ2割程度安価に供給できるとみている。



- ◎導入メリット
- ・非引火性のため防爆設備が不要
 - ・従来のリンス剤と比べ性能は同等以上で、価格は2割程度低減できる
 - ・蒸留装置を使用して再生が可能で、純水に比べ排水量を7分の1～10分の1程度に低減できる

液中の残渣や洗浄剤は濃縮され、排水量は純水に比べ7分の1～10分の1程度となり、環境負荷も大幅に低減できる。荒川化学は2016年

半ばにサンプル出荷を始めた。ハンダ材料や洗浄剤も手がける販売網を活用し、電子部品メーカーの投資が活発な中韓台や東南アジアなどでは海外販売会社と連携する。従来のリンス剤、純水の双方に対する明確なメリットを提案し、早期の採用獲得を目指す。実装基板以外に精密加工部品などへの活用を見込んで用途開拓を進める方針。